



～鳥取県・モンゴル中央県友好交流20周年記念イベント～

# モンゴル国立馬頭琴交響楽団

## 米子公演

悠久の大地に奏でる音色

2016年

**11月10日** 日 開場18:00/開演18:30

会場：**米子市公会堂 大ホール**

前売券：3,500円/当日券：4,000円（全席自由席）

○プレイガイド：米子市公会堂、米子市文化ホール、米子市淀江文化センター、アルテプラザ、とりぎん文化会館、倉吉未来中心  
\*未就学のお子様のお入場はご遠慮ください。



- 主催：鳥取県・モンゴル中央県友好交流20周年記念イベント実行委員会、（一財）米子市文化財団
- 共催：日本モンゴル文化経済交流協会、日本音楽熟成協会 ●特別後援：新日本海新聞社、中海テレビ放送
- 後援：モンゴル国外務省、日本国外務省、鳥取県、米子市、米子市教育委員会、鳥取県モンゴル中央県親善協会  
（公財）鳥取県国際交流財団、（公財）鳥取県文化振興財団

特別協賛：特定非営利活動法人 幸伸、(株)コダマサイエンス、美保テクノス(株)、(株)ミヨシ産業



「響かせようトットリズム」は、鳥取県の強み（自然・絆・時）を生かし、県民総参加で地方創生を進めるための合言葉です。

◎お問合せ：米子市公会堂 0859-22-3236



モンゴル国立馬頭琴交響楽団

1990年に民主化したモンゴルは、1992年にはその名前もモンゴル国と改名しました。時の大統領P.Ochirbat氏の決定で「モンゴル国立馬頭琴交響楽団」が結成されました。モンゴル社会全体が混乱期にありましたがTs.Batchuluun氏が育ての親兼指導者として奮闘し、また民族の音楽を自由に演奏できるという時代を迎えて、古来から親しまれてきた馬頭琴を愛する若者たちが集まり研さんを積んできました。1993年4月16日にはモンゴル国立オペラ劇場で記念すべき初演。その音色は、民族の夢と誇りを馬頭琴で表現する喜びにあふれておりました。以来、23年間モンゴル国内はもちろんの事、様々な国で演奏をし、国境を超えてモンゴル民族の伝統的な音楽を広めてまいりました。結成10年目にはユネスコの無形文化遺産にも登録されました。馬頭琴という楽器の可能性は大きく、民族音楽のみならずクラシックまでレパートリーは広がり今後の成長に期待されております。

【参考】

- 当楽団に関するユネスコ無形文化遺産に登録された記録
- 馬頭琴(モリン・ホール)の伝統音楽  
Traditional music of the Morin Khuur, 2003年
  - 伝統的長歌民謡オルティンドー(中国/モンゴル共通)  
Urtiin Duu, traditional folk long song, 2005年
  - ホーミーのモンゴル伝統芸術  
Mongolian traditional art of Khoomei, 2010年
  - リンベの長歌民謡の演奏技術—循環呼吸  
(息継ぎをしないで循環呼吸法での演奏。)  
Folk long song performance technique of Limbe performances - circular breathing, 2011年



〈指揮〉  
デルゲルサイハン・トゥフシンサイハン



〈ソプラノ〉  
バーサンスレン・エンフナラン



〈テノール〉  
バヤルサイハン・バトジャルガル



〈民謡〉  
ムンフバートル・バトウルジー

●楽器について

馬頭琴「モリン・ホール」



モンゴル遊牧民族にとって馬頭琴と言う楽器はとても大切な楽器です。遊牧民族の五畜(馬、羊、山羊、牛、ラクダ)の一つである馬は一番尊ばれている動物で、馬頭琴の音色は美しいのでこのように敬われています。馬頭琴は奏者が持ちやすく、膝の間に挟んで弾けるようにつくられ、そして煩く鳴り響くのではなく小さな場所でも心地良く聴いてもらえます。人々に良く知られている馬頭琴の物語はフアー・ナムジル(Kuku Namjil)と言う名の青年の物語です。彼には分身とも言うべき馬がいました。どんな所へでも連れて行ってくれた馬でした。ある夜、その馬を持つフアー・ナムジルを妬んでいた一人の女性はその馬を殺してしまいました。フアー・ナムジルは数日間悲しみ、そして自分の馬のために楽器を作る事を決めました。フアー・ナムジルは馬の頭を木で彫刻し、長い棹に繋ぎました。共鳴箱を馬の皮で覆って形を作り、弦には馬の尻尾で棹の上から下まで張りました。弓も馬の尾で作りました。そして、彼は作った馬頭琴を弾きながら馬のいななきや走り方を演奏しました。馬頭琴は共鳴箱、上端に馬の頭の飾りがある木棹、弦は2本で片方は細く、片方は太く束ねてあります。(男・女とも呼ばれる)演奏法は地域によって異なる場合がありますが、普通は弦に左手の人差指や中指や薬指で押さえ、また親指と小指で弦を押し上げて弾きます。現在、馬頭琴はモンゴルだけではなく世界中の国々でも知られるようになりました。遊牧民族の生活文化の中から生まれ大切にされてきた馬頭琴は、2004年にUNESCOから「世界無形文化遺産」と登録されました。モンゴル遊牧民族から生まれたこの馬頭琴、今は世界中の人々の心に届く楽器になりました。